

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3970500231
法人名	合資会社 友輪
事業所名	グループホーム 友輪
訪問調査日	平成 20 年 2 月 13 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 28 日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3970500231		
法人名	合資会社 友輪		
事業所名	グループホーム 友輪		
所在地 (電話番号)	高知県土佐市蓮池3625番1 (電話)088-854-1591		
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成20年2月13日	評価確定日	平成20年5月28日

【情報提供票より】(平成20年 1月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年8月21日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9	常勤 5(内兼務2)人、非常勤 4人、常勤換算	5.5人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨	
	2 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000円～30,000円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 含む 円
	1,000円		

(4)利用者の概要(平成20年1月25日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	4名	要介護2	1名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	名
年齢	平均 88歳	最低 78歳	最高 94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	伊与木クリニック 町田整形外科 塩田歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い山と川に挟まれた自然豊かな環境に立地するホームである。ホームの理念である「最高の居心地よい居場所」をケアの原点としており利用者の思いや自発性を大切にしている。利用者の表情は、落ち着いていて穏やかである。日常生活行動も自然に流れている。また、ホームは二階の空いている部屋を、近所の方々のヨガ教室に提供したり、近隣との日頃の付き合いを大切にするなど積極的に地域交流をはかっている。また、月1回音楽療法を取り入れ、利用者の残存能力の維持や精神的な安定につなげており、利用者全員が参加するなど楽しみの時間となっている。今後も、地域になくなくてはならない存在として、更なる発展を期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での課題については、改善に向けた話し合いがされている。「安全な服薬管理や洗剤」については保管場所、管理方法を徹底するなど取り組まれている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については 管理者はじめスタッフが意見交換を行い、現状と課題について話し合っている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地区長、社会福祉士、利用者の家族で構成され、二か月に一度開催しており、その時々々のホームにおける課題について協議している。冬場の風邪、ノロウイルス対策などで、玄関の入り口に洗面所を設置したり、ヘビ退治には煙草の煮出しが効果的であるなど、貴重な意見をいただき改善をしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部7, 8) 開設当初から、管理者やスタッフの交替はなく利用者等との信頼関係が保たれている。家族向けの通信を毎月発送しており、家族との連携を深める努力をしている。また、利用者の状態変化や事故が合った場合は、すぐ報告など、対処している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区会に加入しており、地区長としても地域活動をしている。波介川のチリ回収や草刈り、地区清掃に参加するなど連携をはかっている。地元保育園の運動会に招待されたり、近所の方が採れた野菜を届けてくれたり、地域との交流は良好である。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 利用者を中心とした職員の思いが入った理念であり、「お年寄りにとって最高の居心地のよい居場所」は職員一同ケアの原点としている。 <input checked="" type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。 「社会に貢献します」の理念のとおり、地域との関係を密にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 職員同士で利用者への対応等に戸惑いを感じた時は理念を振り返り、日々の生活支援に取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面（言葉かけ、態度、記録等）において、理念が反映されている。 利用者一人ひとりのペースにあった介護を心がけており、理念に基づいた取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 地区会に参加しており、管理者が区長を担当したり地区への行事への参加など連携はできている。 <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 地区清掃作業や波介川のチリ回収、草刈りなど職員が参加している。地域の保育園とも交流があり、ホームの二階では地域住民とヨガ教室を開催するなど努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 管理者が作成したものを職員と一緒に確認し、自己評価に取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 前回の改善事項については、職員間で話し合われ改善に取り組んでいる。今回の自己評価で、利用者への言葉かけが馴れ合いになっていないかなど、課題が見出され、話し合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input checked="" type="checkbox"/> 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。 地区長(市役所で以前、介護保険の担当課に所属)、社会福祉士(介護支援専門委員)、利用者の家族で構成され二か月に一度開催されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。 その時々課題について報告や協議している。冬場の風邪、ノロウイルス対策では玄関入り口に洗面所を設置したり、蛇やムカデ退治に貴重なアドバイスを頂くなど改善に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。 市町村の窓口に対しては、ホームでの実情報告や市町村主催による研修に積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 利用者は長期に入居されている方が多く、ほとんどの家族と職員は顔見知りの状態にある。信頼関係ができており、気軽に話し合える状況にある。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 ホーム便りを毎月一回家族向けに送付しており、行事等の利用者の写真などを同封するなど暮らしぶりを知らせている。 <input checked="" type="checkbox"/> 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 健康状態などの変化については、早期に家族等へ報告がされている。 <input checked="" type="checkbox"/> 金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 管理台帳は整理し、家族の確認サインももらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 家族会は組織してないが、食事会などホームの行事には家族への案内も行い、行事後家族同士が話し合える場を設けている。昨年は7月・12月に行い最低3家族以上は出席している。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 平成15年のホーム開設からこれまで、主だった職員の退職等はなく、利用者にとっても安心した支援となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取、スムーズに移行できるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input checked="" type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 ホーム管理者より研修の案内等は周知され、職員が参加できる体制にある。入社2カ月の職員も新人研修「コミュニケーションの取り方」等受講している。 <input checked="" type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 毎月の定例会において職員間で報告したり、回覧する機会がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 県内の宅老所・グループホーム連絡会に加入している。 <input checked="" type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。 近隣のホームと積極的に交流をもっており、行事に招待されたり、他ホームに訪問したりと資質向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 入居の際に家族からの情報をもらっている。また、開設当時から入居者も多く日常において利用者の状況把握ができています。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族に事業所の見学や体験してもらっている。 入居希望については、家族にホームに来てもらいホームの雰囲気や体験してもらっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。 基本的には、ホーム管理者が職員に話をもっていく入居判定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。職員間の話し合いにより、利用者に対して「最高の居心地よい居場所」を常に心がけており、職員本位の生活状況になっていない。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。</p> <p>利用者も職員もたいへん穏やかな雰囲気を出しており、家庭的な取組みができている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。</p> <p>利用者によっては、意識の中で一時的に身を寄せている場所として捉えている利用者もあり、毎日、初めてお会いした感覚を大切に接している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。</p> <p>現在、1名の対象者がおり、困難になる以前から入居していたことで職員も利用者の表情やアイコンタクトなどで、思いや意向を把握するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。</p> <p>本人や家族の意見、気付きを大切にしている。口腔ケアの要望などがあり、取り入れている。本人に出席してもらうこともある。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。</p> <p>職員全体で意見交換を行っている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。</p> <p>三か月ごとに見直しが行われている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。</p> <p>状況変化に応じた見直しがされている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。</p> <p>個別対応をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続ができるように努めている。 ホーム近くのクリニックと連携を密にしており、対応は可能である。 <input checked="" type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 開設以来、利用者2名についてホームでの看取りを行っている。ご家族の希望を聞きながら対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 ホームとして、近隣のクリニックから週1回の往診があり、その他の医療機関への希望は今のところない。利用者1名が要望により理学療法士の訪問を毎週受けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 家族への連絡は日常的に行っており、受診に関する情報も共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input checked="" type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 管理者が看護師であり、往診の医師と家族も含めた話し合いをする体制がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。 これまでに利用者2名の看取りを行っており、過去の経験を踏まえ医師等と連携し、本人や家族の意向を踏まえた取り組みができる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉がけや対応に配慮している。 昼食時利用者がこぼしたおかずを、スタッフがさりげなく自然に片づけていた。また、開設当初からの利用者と職員の関係により、職員の声掛けが馴れ合いにならないよう再確認している。 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 一人ひとりのその日にしたいことなど、選択する機会をあえて作っており、利用者の思いを聞きとる努力をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 職員間で「最高の居心地よい居場所」を意識して取り組んでおり、利用者のペースによる生活をサポートしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。 献立については、スーパーのチラシをもとに食材と一緒に買いに行き、献立を利用者と一緒に工夫している。片付けについても能力に応じた対応を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。 職員全員と一緒に昼食をとっており、食事にもさりげない気配りができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 毎日入浴する方は3名くらいおり、利用者の希望に合わせた対応ができている。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせて入浴支援を行っている。 見守りは1名で、あと車椅子1名を含めた8名は入浴介助が必要で、その人に応じた言葉掛け、工夫をしている。拒む人に対しては、家族に了解をいただき、本人のその日の状態に合わせて支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 安価で旬の食材選びから買出し、食事の片付け、テーブル拭き、洗濯たたみ、など利用者の状態を見極め、また、残存能力を維持できるよう、やさしい誘導を心がけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 それぞれに応じた役割を見出し、さりげなく役割を持たせている。コーヒーをたてる係や芋餅作りの得意な方、毎朝スーパーのチラシから買い物を分担して楽しんでいる方、日常場面で利用者の自発性をスタッフは大切にしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 利用者人気の「カルタ取り」は5～6人集まっている。あえて失語のある方にカルタを読んでもらい、利用者もその状況を受け入れている。また、月1回音楽療法を取り入れ、利用者の残存能力の維持や精神的な安定につながっており、全利用者が参加するなど楽しみの時間となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 ほぼ毎日散歩、買物は行っており、馴染みの理髪店に出かける利用者もいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的にやっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、移動においてはできるだけ歩行器を使って職員が介助している。毎日5人程度は散歩に出かけており、車いすの方はベランダまで歩行している。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 毎月、お花見、菊祭り、コスモス、芍薬など楽しみ事のドライブに出かけている。また月1回定期的に日高の「わのわ」やファミリーレストランなどで外食の機会をもっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 徘徊傾向のある方2名ぐらいいるが、行動を把握し、制限をしないように言葉掛けをして見守っている <input checked="" type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 近所は農家が多く、常に意識したつながりを持っている。過去には、徘徊していた利用者を近所の方が見つけ、話しかけてくれホームに連絡をもらったこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
	27	71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。</p> <p>緊急時においてボタンを押すことで近隣へ連絡できる機能を設置している。避難訓練については、近隣者に協力してもらっている。年2回実施している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常食料・備品を準備している。</p> <p>地震の災害時には、市からホームの二階への避難を指示されており、非常食については、備蓄がされている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
	28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。</p> <p>食事とおやつ時に水分1300から1500mlを目安とした摂取について職員が把握し、変化がある場合には業務日誌への記載により経過を観察する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。</p> <p>地域から食材の差し入れやスーパーのチラシによる旬な食材を取り入れながら、利用者の好みに合わせた献立の工夫もある。繊維質の豊富な食材や運動に気を配り健康管理をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。</p> <p>管理者の知り合いの栄養士等に確認してもらっていたが、最近は出来ていない。</p>	○	市の保健師などに依頼し、確認してもらう体制づくりが期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1)居心地のよい環境づくり						
	29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。</p> <p>利用者全員がゆったりと座れるスペースがあり、ガラス戸からの直射日光も部屋を暖かくさせている。各自が部屋に閉じこもることもなく、常にくつろげる空間になっている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない。</p> <p>利用者が好きであった椿の写真や利用者との共同作業の絵、思い出に残る写真などを壁面に飾っている。比較的シンプルにしており、空間を不快なものにはしていない。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。</p> <p>玄関には、雛飾りがあり、廊下には適度に季節の花が飾られている。</p>		
	30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>使い慣れた馴染みの物を傍に置くなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫している。</p> <p>利用者によっては、意識の中で一時的に身を寄せている場所として捉えている高齢者もあり、馴染みの物をおくことで不穏になる利用者もあり、個々による対応に配慮している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。</p>		